連　載

経済金融用語の基礎知識　＜第１回＞

原油先物価格　WTI

安藤　範親

WTIとは

世界の原油取引は、消費地ごとに、アジア（中東産原油）、欧州（北海ブレント原油）、北米（WTI原油）の３つの市場が形成されており、世界の原油相場は、これらの価格を互いに参照しながら決まっている。なかでもWTI原油は、日本のニュースなどで「原油価格＝WTI 先物価格」として取り扱われており注目が高い。

WTIとは、ウエスト・テキサス・インターミディエイト（West Texas Intermediate）の略で、米テキサス州を中心に産出される軽質スイート原油（比重が軽く硫黄分が少ない高品質原油）のことである。ニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で取引されており、北米市場では、域内で流通しているほとんどの原油はWTI価格に連動して決定されている。

しかし、その産出量は一日当たり50万バレル前後と、アメリカ国内で産出される原油の約5%、世界で産出される原油の約0.6%を占めるにすぎない。では、なぜ産出量が少ないにも関わらず世界の価格指標となっているのだろうか。

その理由は、WTI を取り扱う NYMEX が、裁定取引が容易などの理由から流動性や透明性が高いために市場参加者が多く、WTIの産出量に対して、WTI 先物の一日当たり取引量は 6 億バレルにのぼり、世界最大規模の取引量となっているためである。また、一日当たりの世界の消費量約 8,500 万バレルに対し、米国は約 1,900 万バレルと世界最大のエネルギー消費地であるということも理由の一つである。WTI の価格動向は、他のエネルギー価格や世界の物流、商品価格に影響し、米国内の消費動向に反映されるため、NYダウや日経平均株価などの世界の株価指数に影響を与え、世界経済の先行きを占う重要な経済指標となっている。

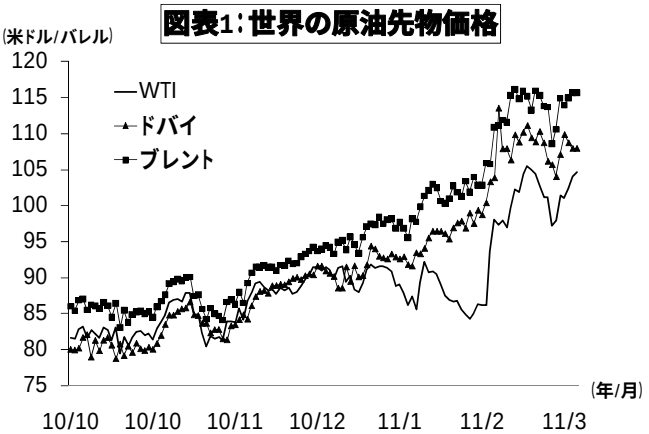
中東情勢が引き起した価格逆転

質の高いWTI原油は、従来は他の原油よりも高値で取引される傾向にあったが、現在、逆転現象を引き起こしている（図表 1）。価格は、3月22日終値（期近物）で、WTI原油が104.00 米ドル/バレル、中東産のドバイ原油が 108.00 米ドル/バレル、北海ブレント原油が115.70米ドル/バレルと、WTI原油が北海ブレント原油よりも 1 バレル当たり 10 ドル以上安くなっている。

その原因は、アジア・欧州では、中東情勢不安による供給懸念と景気好調な中国、ドイツなどの需要増により高値が続いているが、北米は、中東情勢不安により高まりを見せるものの、中東産原油の輸入割合が低いことや、新しいパイプラインの竣工などで原油在庫量が増加傾向にあり、価格上昇圧力が抑制されているためである。

今後は、中東情勢不安が収まるか、原油高騰が需要減を引き起こすまでは、当面の間、原油相場の高止まりが続くだろう。

図表1：世界の原油先物価格



（資料）Bloombergデータから農中総研作成

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます